

(様式)

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	八代海

ノリ養殖指導

県南広域本部水産課・島田 小愛

【背景・目的・目標（指標）】

近年、八代海のノリ養殖は、秋芽生産期の高水温化、色落ちの早期発生、あかぐされ病の拡大等により、生産枚数及び生産金額は減少し続け、平成20年度(2008年度)には38あった経営体数が、現在は2経営体となっている。

水産課と熊本県漁業協同組合連合会では、八代海でのノリの安定生産を図るため、採苗指導や養殖状況調査を実施している。なお、ノリ養殖に係る課題を解決するため、今年度は生産者と定期的に情報共有する勉強会を2回実施することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

(1) ノリ生産者との勉強会

月日：令和2年(2020年)10月14日、令和3年(2021年)1月13日

場所：三角町漁協

参集範囲：生産者、熊本県漁業協同組合連合会、水産研究センター、水産課

内容：令和元年度(2019年度)漁期の振り返り、令和2年度(2020年度)漁期に向けての病害・色落ち対策、令和2年度(2020年度)漁期の中間報告

(2) 採苗指導

月日：令和2年(2020年)10月20日、10月21日

場所：三角町漁協郡浦支所

内容：経営体ごとの採苗直後の芽数の計数、芽いたみ等の検鏡と養殖指導(図2)

(3) 養殖状況調査

年月：令和2年(2020年)11月～翌2月(計15回)

内容：漁場ごとの環境調査(水温、比重、プランクトン沈殿量)、経営体ごとノリ葉体の葉長、病害等の調査、情報提供及び養殖指導を行った。なお、調査のとりまとめを図4に示す。

【成果・活用】

漁期前の勉強会に加え、漁期中に中間報告を兼ねた勉強会を実施したことで、養殖状況や課題をリアルタイムに生産者と関係機関で共有し、改善点を話し合うことができた。

なお、10月下旬の採苗は、おおむね良好であったが、その後の育苗期にバリカン症に似た葉体の流失が生じ、生長に影響した。また、漁期を通じて養殖に適した海況であったが、生産者の高齢化等により網の管理が不十分であったため、本年度の八代海での生産枚数は91万枚(昨年度比62%)、生産金額は851万円(昨年度比43%)となった。

【達成度自己評価】

4 目標(指標)はほぼ達成できた(76%~100%)

(様式)

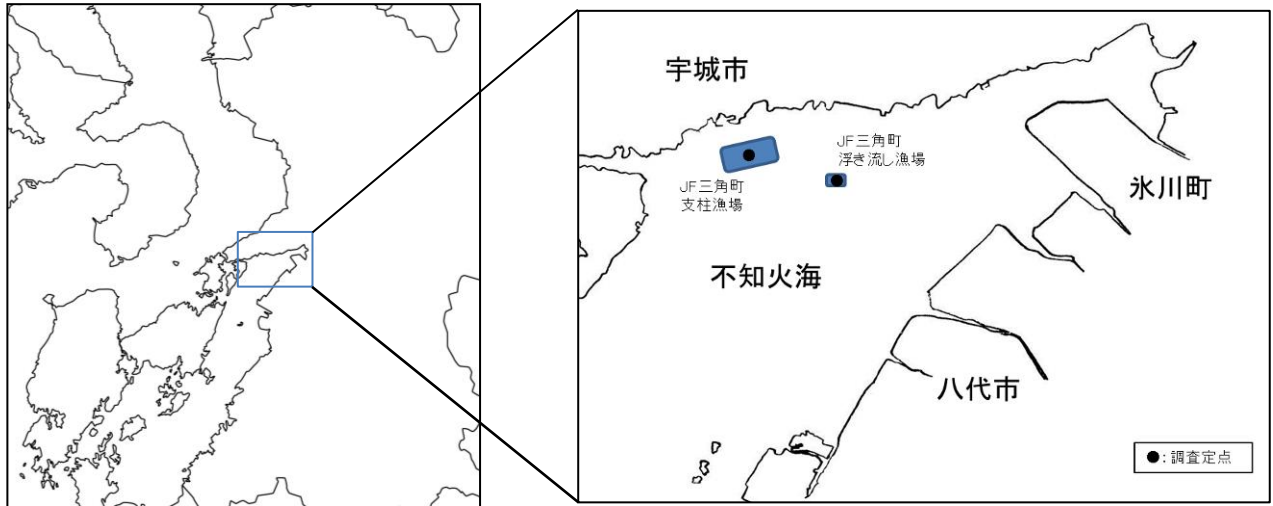


図1 養殖状況調査定点図

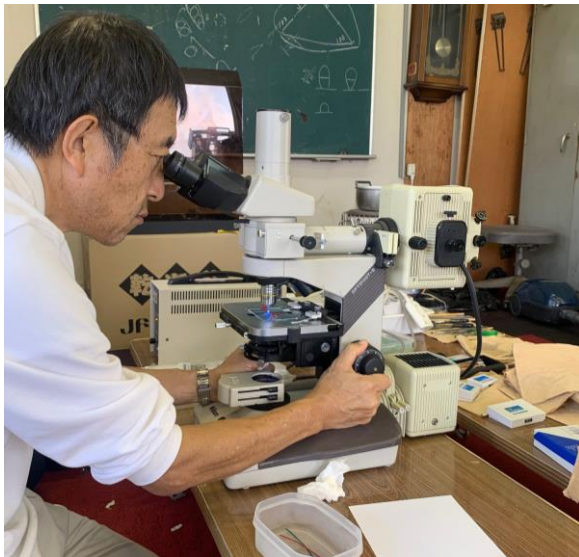


図2 芽付き状況（採苗網）の確認

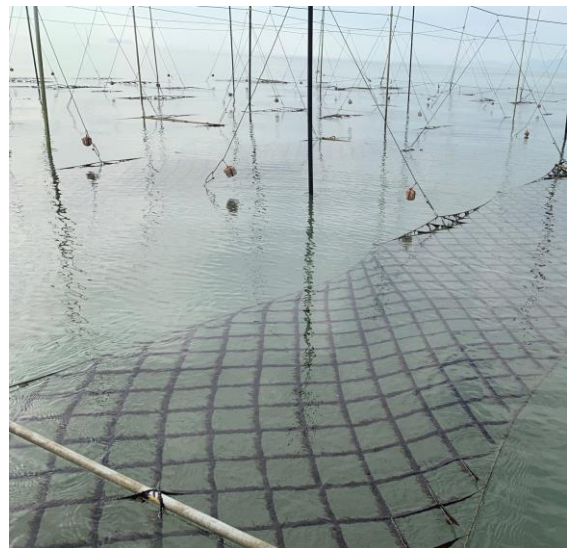


図3 養殖状況の確認

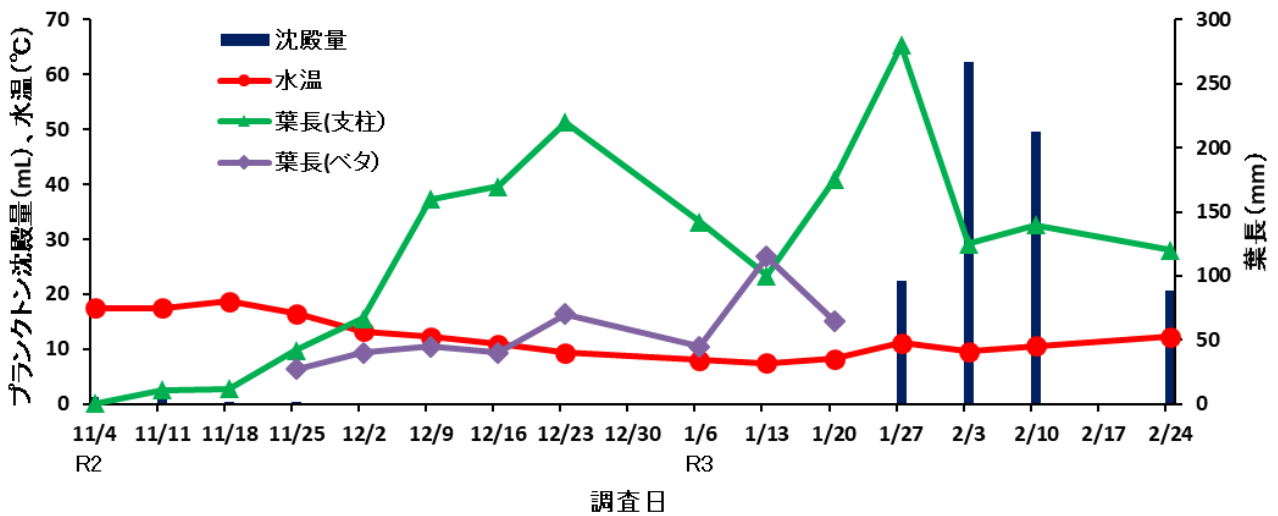


図4 養殖状況調査の結果（とりまとめ）